

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 91人 国語B 91人

② 算数A 91人 算数B 91人

5 留意事項

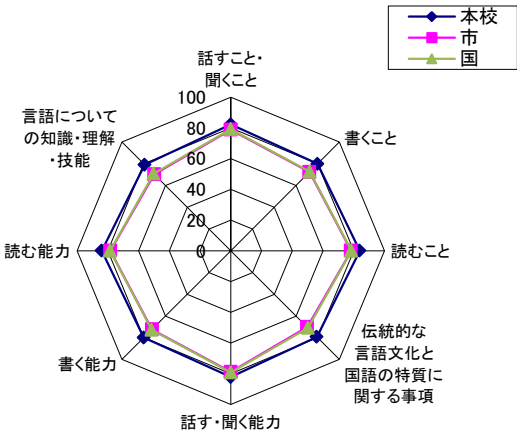
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

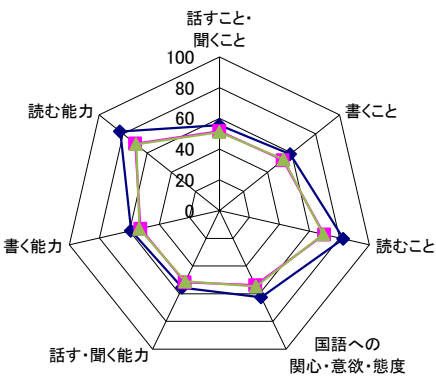
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.2	78.8	79.2
	書くこと	80.0	72.4	72.8
	読むこと	83.9	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.2	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	82.2	78.8	79.2
	書く能力	80.0	72.4	72.8
	読む能力	83.9	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	79.2	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	55.6	51.7	51.1
	書くこと	58.9	52.7	53.4
	読むこと	82.6	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	62.5	53.8	54.7
	話す・聞く能力	55.6	51.7	51.1
	書く能力	58.9	52.7	53.4
	読む能力	82.6	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

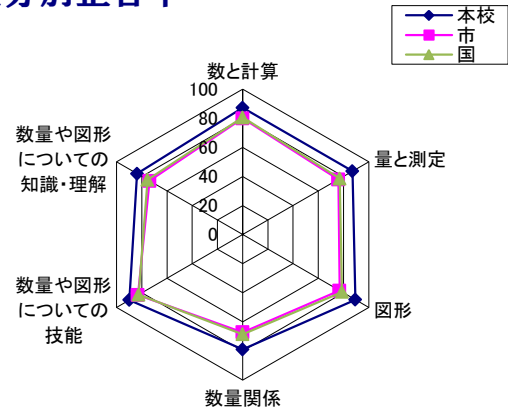
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○●Aテストの平均正答率は82.2%で、全国平均より3.0ポイント高い。また、Bテストでは55.6%と全国平均より4.5ポイント高い。しかし、他の領域と比べると全国平均正答率とのその差は小さいといえる。目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけながら話し合う力の更なる向上が課題である。	・話す・聞く能力を高めるために、自分の意見を述べたり相手の話を集中して聞いたりする機会を、国語の時間や会話科、その他の日常の様々な場面で数多く設定する。 ・話し合い活動において、課題に沿って自分の考えをもった上で、積極的に意見を述べられるように、グループでの話し合いや学級全体での話し合いの場を意識して設定する。また、その場での自分の役割に合った発言ができるように指導していく。
書くこと	○Aテストでは、書き手の表現の仕方をよりよくするための助言を考える設問では、全国平均よりも10.4ポイント高い。 ●Bテストでは、グラフを基に分かったことを書く設問において全国平均を2.3ポイント下回っている。	・グラフ等の資料から読み取ったことを文章としてまとめる活動を国語の時間だけではなく、社会科等でも積極的に取り入れ、習熟を図る。 ・テーマに沿って文章を書く機会を多く設定し、自分の考えや感想を明確にした文章を書く力を養う。 ・国語の時間はもちろん、自主学習や日記、その他の場面でも自分の思いや考えを書く活動を充実させる。
読むこと	○Aテストの目的に応じて、図と表とを関係付けて読む設問では正答率が100%であった。 ●登場人物の人物像を複数の記述から読み取る設問では、全国平均正答率を3.9ポイント上回っているものの本校の平均正答率は67.8%であり、課題があるといえる。	・授業で扱っている文章と同じ作者や同じテーマの作品を数多く紹介し、登場人物の心情に沿って読み進めたり、説明文での事実と意見が読み分けられるよう指導していく。 ・物語文の学習では、細かい表現や場面の情景を表す言葉を丁寧に取り上げながら、場面や心情の変化を考え、主題を読み取れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●ローマ字を正しく読んだり書いたりする設問の平均正答率は、全国平均をわずかに上回っただけで課題がある。無答率も全国平均よりは低いものの、他の設問に比べると高い。	・新出漢字を丁寧に指導するとともに、漢字ドリルなどによる繰り返し練習で定着を図る。また、こまめに漢字テストを実施し、確実に定着できるようにする。 ・新出漢字だけでなく、既習のローマ字についても繰り返し練習したり、英会話の時間の充実させたりして定着を図る。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

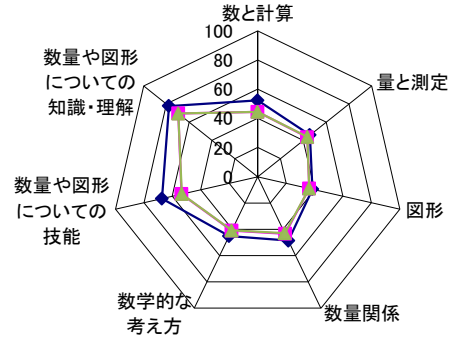
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	87.1	79.9	80.5
	量と測定	87.2	75.9	77.0
	図形	89.4	76.9	78.8
	数量関係	78.9	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	89.8	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	83.7	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.4	44.5	44.4
	量と測定	45.8	43.5	43.7
	図形	38.5	36.2	36.3
	数量関係	48.7	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	45.1	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	67.2	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	77.8	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○Aテストの設問別平均正答率は全て全国平均より高い。 ●除数が1より小さい時の、商と被除数の大小関係についての問題では、正答率が66.7%と課題がある。 ●示された式中の数値の意味を解釈し記述する問題では正答率が17.8%と、課題がある。	・小数のわり算を復習し、商と除数の大小関係を再度確認する。 ・式を立てる際には、それぞれの数字が何を表しているのかを意識させるようにする。
量と測定	○Aテストの設問別平均正答率は全て全国平均より高い。 ●単位量当たりの大きさを求めるために、必要な情報を判断する設問では、正答率48.9%と全国平均を上回っているが課題がある。 ●正方形の、大きさの変化に伴う面積の変化についての説明を記述する設問では、正答率が55.6%と全国平均を上回っているものの、課題がある。	・公式を見直し定着を図ると共に、文章題では、文章の中に示された数字が、公式のどの部分に当てはまるのかを考えさせるようにする。 ・文章に沿った図を自分で想像できるようにするために、辺や角、面積などの性質や作図の仕方を確認する。
図形	○Aテストの設問別平均正答率は全て全国平均より高い。 ○正方形に内接する円の半径についての設問では、正答率が9割近くあり、定着が見られる。 ●図形の性質を活用する設問では、正答率が21.1%、無解答率が8.9%であり、示された図形を基に式の意味を説明する設問では、正答率が6.7%とそれぞれ全国平均を上回っているものの、課題がある。	・作図をしったり折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的・体験的に理解できるようにする。 ・日常生活の中での算数の活用を考えさせたり、応用できることを見つけさせたりする。
数量関係	○Aテストの設問別平均正答率は全て全国平均より高い。 ●定員と乗っている人数の割合を百分率で表す設問では、正答率が54.4%と全国平均を上回っているが課題がある。 ●グラフを読み取り、それを根拠に示された事柄が正しいことを説明する設問では、正答率が30.0%と全国平均を上回っているが課題がある。	・日常生活で算数が活用される場面を想起させながら、どのように立式すればよいかを考えさせ、計算を身近なものとして捉えさせる。

宇都宮市立今泉小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問では、肯定的回答率が95.6%であった。また、「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」の質問への肯定的回答率は100%となった。児童の学校生活への満足度の高さが伺える。これからも、児童の学校生活が充実し、仲間と共に成長することのできるような環境づくりに努めていきたい。

○「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」の質問では、肯定的回答率が97.8%であった。授業において、目的意識を持って学習活動に参加しその結果を振り返り自らの成長につなげるという学習の流れの定着が見られる。今後も学習を通して児童が自らの変化(成長)を自覚し、自立して学習していくために必要な記録がとれるようにノート指導していきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問では、肯定的回答率が100%であった。他者を尊重する意識が児童の中に定着していることがうかがえる。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の質問では、本校の肯定的回答率が59.4%と全国の平均を7.7ポイント上回っている。自分の発言を最後まで聞いてもらえるという安心感が児童の自由な思考を促し、それを共有したいという願いが生まれ、発言意欲が高まるというよい状況を生み出していると考えられる。今後も誰もが安心して失敗できる雰囲気や大切に、誰の発言も大切にされる環境を育んでいきたい。

○「国語の学習は好きですか」の質問への肯定的回答率は79.2%、「算数の学習は好きですか」の質問への肯定的回答率は82.4%と共に全国の平均を15ポイント以上上回っている。また、学習が将来社会に出たときに役に立つと考えている児童も共におよそ98%いる。今後も児童の学びを主体とした授業展開を行うとともに、学校で学習することの意義を児童が自覚できるよう、児童が学習内容やそれを受け取る自分自身を意識的振り返る時間を大切にしていきたい。

●平日にテレビゲーム(スマートフォンを含む)を2時間以上行っている児童の割合が17.6%、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上行っている児童の割合が4.4%いる。全国の使用状況と比較するとその割合は10ポイント以上下回っているが、今後も児童が自分の生活時間を計画的に活用できるように声をかけていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問への肯定的回答率は50.6%である。これは全国の平均を17ポイント下回っている。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問への肯定的回答率は、79.2%であった。児童の関心が、地域の行事への参加とつながるように、今後も地域の行事等の情報を各種便りを通じて提供していきたい。